

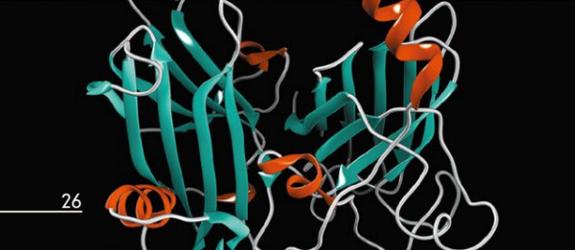
# 化学科

Department of Chemistry

学科定員: 40名

学門Eから進級できます

<http://www.chem.keio.ac.jp/>



## 科学の「幹」となる進化する化学 探究・解明からはじまる創造のサイエンス

「人と自然に一番近いサイエンス」、それが化学です。「化学」とは物質の性質とその変化を対象とした学問であり、私たちが生活していく上で、必要不可欠なさまざまな物質を自由自在に創り出すことができる唯一の手段です。このように「化学」は多くの科学技術の文字通り「根幹」であり、将来にわたって科学技術の舞台上で主役を演じ続けます。

学門 A	学門 B	学門 C	学門 D	学門 E
物理・電気・機械分野	電気・情報分野	情報・数学・データサイエンス分野	機械・システム分野	化学・生命分野
物理学科 物理情報工学科 電気情報工学科 機械工学科	電気情報工学科 情報工学科 物理情報工学科 システムデザイン工学科	情報工学科 数理科学科 管理工学科 生命情報学科	機械工学科 システムデザイン工学科 管理工学科	化学科 応用化学科 生命情報学科

### 学びのキーワード

有機合成 生物有機化学 ケミカルバイオロジー 天然物化学  
タンパク質化学 グリーンケミストリー ダイヤモンド電極 光機能性材料  
ナノ機能材料 ナノクラスター 表面化学 錯体触媒  
量子化学 有機金属化学 分子集合体

### 基礎から応用まで世界の最先端の研究

物理化学、無機化学、有機化学、材料化学、生命化学などの分野を軸として、たとえば、(1)実験や計算による反応プロセスの解析、(2)触媒や磁性体など高機能ナノ材料の創成、(3)新しい化学反応の開発、(4)生命現象の分子レベルでの解明など、普遍的な基礎化学から次世代を切り拓く応用研究まで最先端の化学を研究できます。

### 少人数教育でリーダーとなる人材を育成

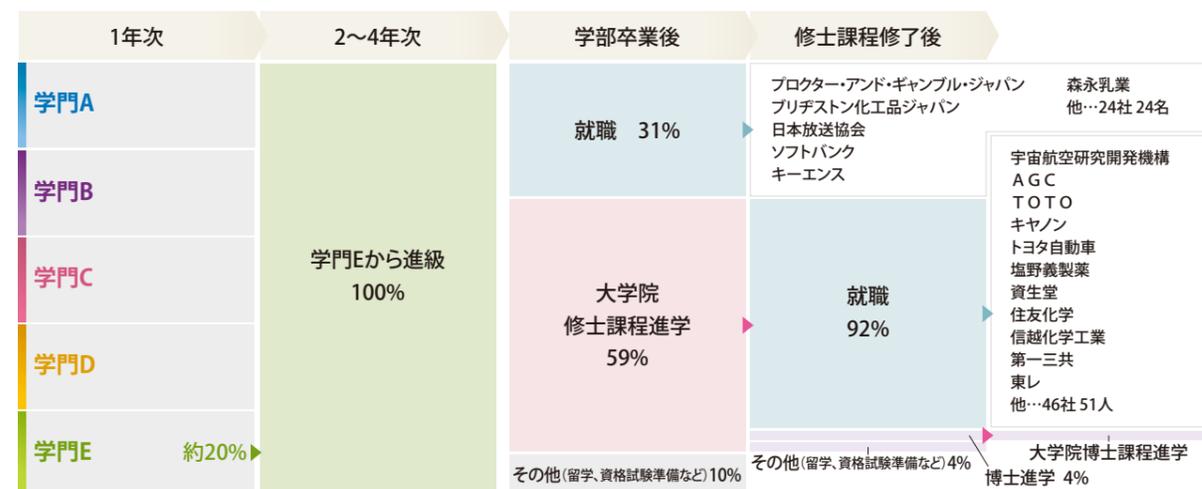
1学年あたりの学生約40名に対して、20名の教員が理工学部で最もきめ細やかな少人数教育を行っています。第4学年の卒業研究の多くは、そのままそれぞれの分野の専門学会で発表できるような最先端の内容です。新分野を開拓し、独創的な新技術を創成することのできる真のリーダーに成長するよう全力でサポートしています。

### 化学の全分野をバランスよく学ぶ

第2・第3学年では、化学の基礎的分野をバランスよく学び、専門的な化学を学ぶための基礎学力を身につけます。また、「ものとの触れあい」を大切に化学実験によって、理学の中心「Central Science」としての化学の視点を身につけます。第4学年では、卒業研究のほか、他大学などの研究者による特別講義で世界最先端のテーマにも触れます。

### 進級・卒業・進路について

2020年3月



※就職先に関する情報は直近3年間に就職した企業名・就職者数を記載しています。

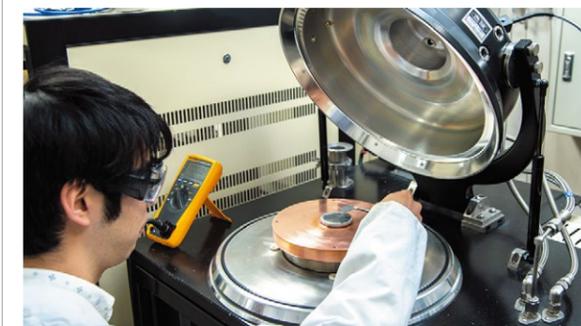
### どんなことが勉強できるの？

#### 原子のレベルで理解して新しい物質を創り出す



化学現象を電子や原子レベルで解明することは、新しい学問分野や概念を創出するだけにとどまらず、新奇な機能性材料を創成することにもつながります。(1)ミクロの世界における電子や原子の運動や反応機構の解析、(2)ナノクラスターと呼ばれる新奇なナノ物質の創成、(3)物質表面に特有な現象を原子レベルで理解し、次世代の機能性材料を創出するなどの研究を行っています。

#### 今までにない材料を化学が実現する



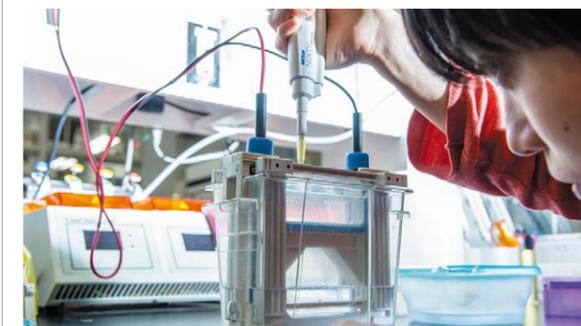
次世代の情報通信技術やエネルギーの高度利用など、私たちの生活を豊かにする物質を創成することは化学の重要な役割です。(1)超高速・高密度の磁気記録が可能なナノ材料の開発、(2)ダイヤモンドを使った超高感度センサーや環境浄化システムの開発、(3)有機太陽電池やエネルギー変換触媒の創出などのほか、ナノ触媒や有機半導体、発光材料の研究も行っています。

#### 化学反応をコントロールする「触媒」を究める



有機金属錯体を触媒として利用することによって、通常の有機合成では得られない有用な化合物を合成することができます。(1)医薬品や機能性材料の合成に不可欠な反応の開発、(2)通常は反応することのない不活性な物質同士を反応させる触媒の開発などを行っています。そのほか、二酸化炭素を利用した反応や、簡便な手法による有機電子材料の開発も行っています。

#### 「化学力」を駆使して生命の謎に挑む



生体現象を分子レベルで解明することは、生命化学の新しい展開を生み出すだけでなく、創薬や治療法の開発につながります。(1)微生物由来の化合物の合成と解析による免疫機構の解明、(2)海洋生物由来の生物活性物質を利用した医薬品の開発、(3)タンパク質が制御する細胞内の銅イオン輸送経路の解明と神経難病の治療法開発への応用などを研究しています。